

Shell Alvania Grease 0576

シェル アルバニヤ グリース 0576

—鉄道車両アクスルボックス用グリース—

シェル アルバニヤ グリース 0576 は、鉄道の軸受用グリースとして、特にせん断安定性と長寿命化に主眼を置き開発したグリースです。ラビリンスタイプ、密封タイプの両軸受に対応した高性能マルチパーパスグリースです。

シェル アルバニヤ グリース 0576 の増ちょう剤は、構造安定性を強化したカルシウムとリチウムの混合せっけんを使用し、基油にはシェルグループ独自の合成油を配合し、耐熱・酸化安定性に優れたものを使用しています。このことから、軸受内でのせん断による軟化が少なく耐漏洩性が良好で、また潤滑性にも優れ、熱安定性も良好で、軸受の長寿命が計れます。

使用温度範囲 : -20 °C ~ +140 °C

■シェル アルバニヤ グリース 0576 の特徴

1. 機械的せん断安定性が優れています

シェル アルバニヤ グリース 0576 は、増ちょう剤にカルシウム/リチウム混合せっけんを使用し、構造安定性に優れています。過酷な条件下でせん断を受けても、ちょう度変化が少なく長期間使用しても流出することなく優れた潤滑性能を保持します。

2. 熱・酸化安定性に優れています

シェル アルバニヤ グリース 0576 は、基油にシェルグループ独自の合成油を配合しているため、耐熱性、酸化安定性に優れます。

3. 軸受の長寿命が可能となります

これら優れた性能、特徴を持つシェル アルバニヤ グリース 0576 のご使用により、過酷な条件で使用する鉄道車両の車軸軸受(ラビリンスタイプ・密封タイプ)の回帰延長も可能となります。

シェル アルバニヤ グリース 0576 代表性状				
試験項目			試験方法	シェル アルバニヤ グリース 0576
外 観				淡黄色
増ちょう剤				リチウム/カルシウム混合
原料基油	タ イ プ			鉱油/合成油
	動粘度 mm ² /s	@40℃	JIS K 2283	95.8
		@100℃		11.3
混和ちょう度			JIS K 2220 7.	237
滴 点 ℃			JIS K 2220 8.	178
蒸発量 (99℃×22h) wt%			JIS K 2220 10.	0.1
離油度 (100℃×24h) wt%			JIS K 2220 11.	0.5
10 万回混和ちょう度			JIS K 2220 15.	278

*代表性状値は、商品の改定により、予告せずに変更場合があります。 (2016-03)

シェル アルバニヤ グリース 0576 の 販売荷姿 : 16 kg ペール

■使用上の留意

- ・給脂の際、機械の給脂口をきれいにし、新しいグリースを補給してください。出来るだけ機械を無負荷で運転しながら古いグリースが排出口などから出つくし、新しいグリースが出て来るまで十分に給脂してください。
その後は、機械メーカーの指示を十分考慮し、定期的に給脂してください。
- ・石けん基の異なるグリースを混ぜると、性能低下がおきますのでご注意ください。なお、同じ石けん基グリース同志の場合でも性能低下がおこることがありますので、異なる銘柄の混合使用はさけてください。
- ・グリースはゴミなどのコンタミネント（汚染物）が混入すると、取り除くことができません。
そのまま使用した場合、軸受、ギヤなどの異常摩耗、破損の原因となりますので取扱いに十分注意するとともに容器の蓋をよく締め、直射日光のあたらない場所（屋内）に保管してください。
- ・製品の海外輸出に際しては、輸出貿易管理令の該非判定だけでなく、その他の要件によって日本政府当局への許可申請が必要になる場合があります。また、仕向国の法規等により輸入制限を受ける場合がございます。製品を自ら輸出されているお客様は、この点をご理解の上ご自身の責任で必要な措置を講じるようお願いいたします。ご不明な点がございましたら、ルブカカスタマーサービスセンターまでお問い合わせください。

※本資料は、事業者様向けに作成されたものです。



取扱上の注意

▼下記の注意事項に従ってお取扱ください。

＜＜取り扱い上の注意＞＞

[安全対策]

- ・使用前にカタログ、SDS を入手し、全ての安全情報を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・取り扱う際は保護具を使用すること。
- ・飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。
- ・無理に吐かせないこと。

[応急措置]

- ・飲み込むと下痢・嘔吐を起こすことがあります。
- ・目に入ると炎症を起こすことがあります。目に入った場合は、清浄な水で最低 15 分間洗浄し、医師の手当てを受けること。

[保管]

- ・皮膚に触れると炎症を起こすことがあります。皮膚に付着した場合は、水と石鹸で十分に洗うこと。
- ・直射日光を避け、換気の良い場所に保管すること。

[廃棄]

- ・ゴミ、水分などの混入防止のため使用後は密栓して保管すること。
- ・内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。具体的には、都道府県知事等の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
- ・不明な場合は購入先に相談の上処理すること。

Rev.1.2017.11.1